

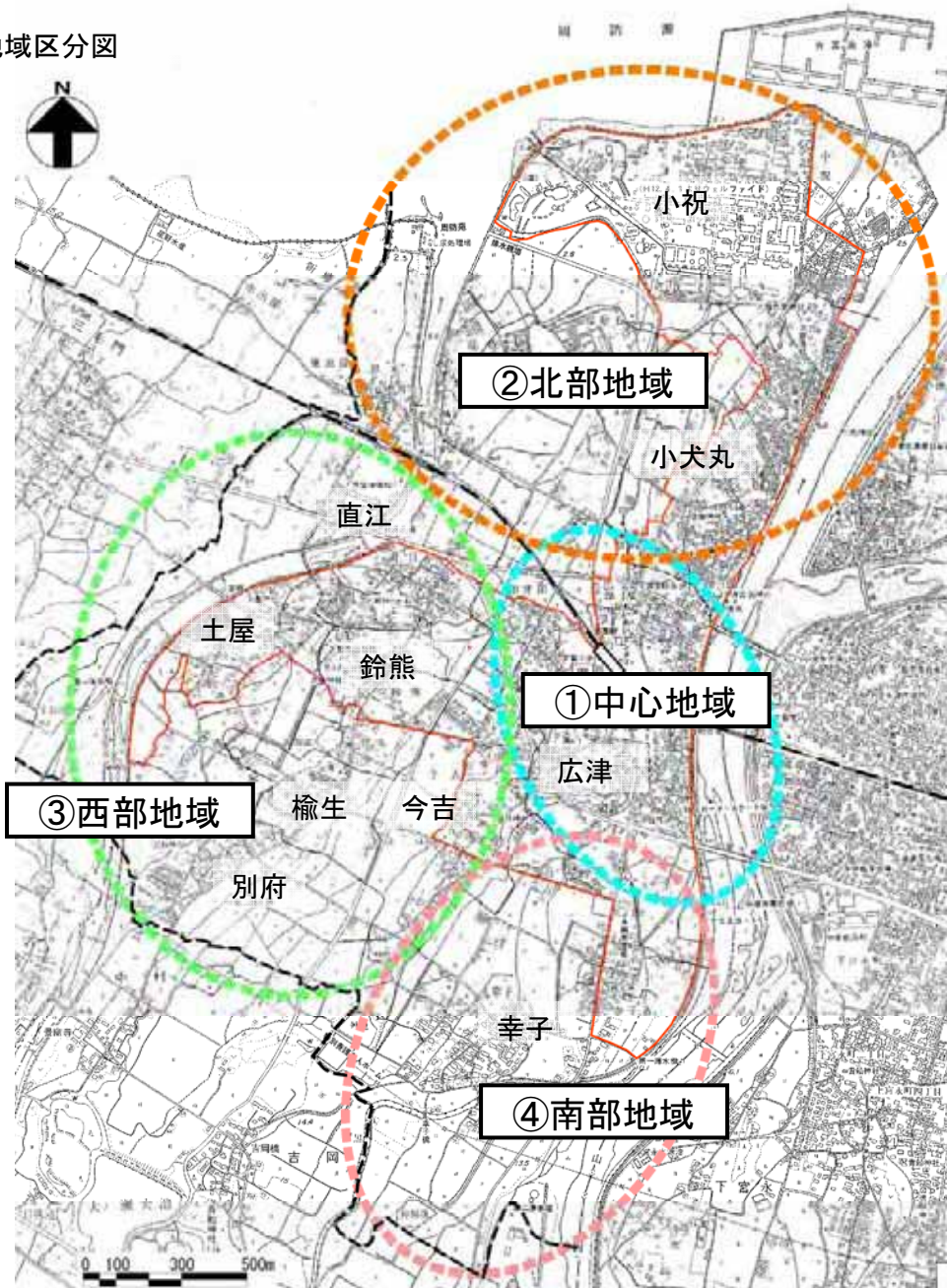
第5章 地域別構想

1. 地域の区分

土地利用および都市施設など基盤整備の内容について、町内を区分し、やや詳細に構想します。

地域区分は、市街地状況や地形的条件および大字界を考慮し、下図に示す4地域を設定します。

図5-1 地域区分図

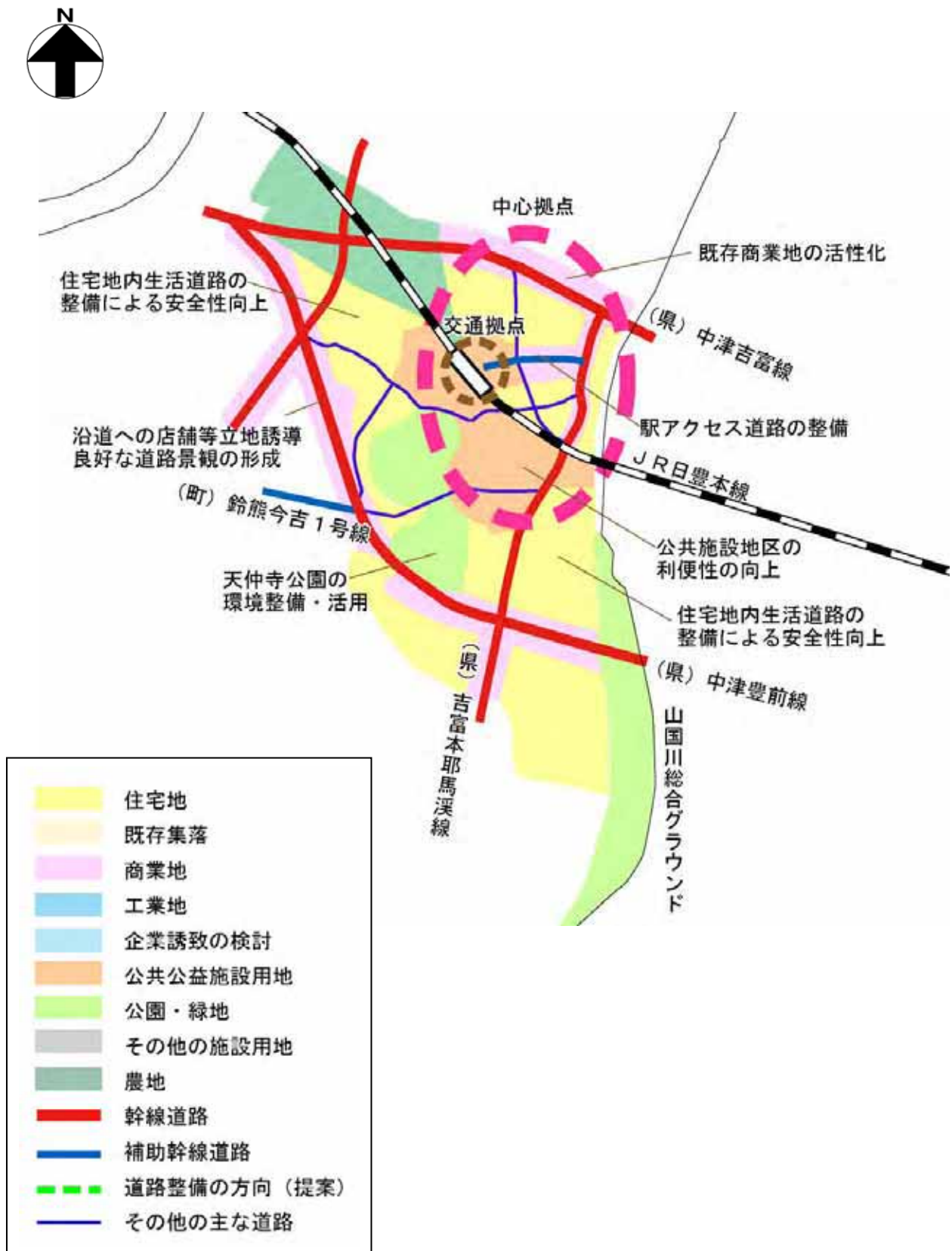


2. 地域別構想

(1) 中心地域

現 況			
地区	大字広津		
地形条件	山国川沿いの平坦地（標高4～5m）と天仲寺山（標高約26m）およびその西側のやや高い段丘面（標高7～9m）からなる。		
幹線道路・交通施設	北側に県道中津吉富線、南側に県道中津豊前線が東西に走る。ほぼ中央をJR日豊本線が東西に通じ、JR吉富駅がある。東側を南北に県道吉富港線が通る。		
主要施設・土地利用	吉富町役場、吉富小学校、吉富あいあいセンターなど町の主たる施設が集積している。病院や民間の商店などが多く、一部工場・倉庫などが混在している。		
市街化状況	ほぼ全域が市街地となっている。		
用途地域等	JR日豊本線北側の県道中津吉富線、県道吉富港線沿いに近隣商業地域を指定。その他は鉄道沿いの一部を除き第一種住居地域。		
地域の特性	本町の中心的な地域である。		
主な問題課題	中心的な地域としては土地の有効利用が十分でなく、活気にかける。特に、県道沿いの商業地が衰退している。幅員の狭い生活道路が多い。公共施設およびJR吉富駅前の駐車場が手狭となっている。		
構 想			
将来像	まちづくりのテーマ	公共施設等の集積した“利便性の高い拠点地域”づくり	
	都市整備の方向	町の中心地として機能し、最も利便性の高い地区で、今後もその機能を強化していくとともに、天仲寺公園の自然を活かしたうるおいある地域整備を展開していく。	
方針	土地利用	県道沿道およびJR吉富駅周辺に商業施設など住民の利便性を支える都市機能の立地・集積を促進する。吉富町役場周辺の公共施設の利便性の向上を図る。既成市街地は安全性の高い住宅地として環境の向上を図る。	
	都市施設	道路	JR吉富駅のアクセス道路、駐車場などの整備を進める。幹線道路と位置づける県道の交通渋滞の緩和、歩道のバリアフリー化など歩行者の安全・快適性の確保を促進する。既成市街地の生活道路の拡幅を促進し、安全に利用しやすい道路網を形成する。
		下水道	ほぼ全域が認可区域であり、整備推進と接続の促進を図る。
		公園緑地	天仲寺公園が有効に活用されるよう、環境整備を図る。
		JR吉富駅	駅施設のバリアフリー化について検討する。
市街地・集落整備	JR吉富駅の利用促進と駅周辺地区の土地利用の促進を図るため、開発整備を推進する。狭い生活道路の拡幅・整備および建築物の防火性の向上の両面から安全性の高い市街地形成を推進する。		

図5-2 中心地域構想図



(2) 北部地域

現 況			
地区	大字小犬丸・小祝		
地形条件	ほぼ平坦な沖積低地（標高2～3m）。北側の工業地は埋め立て地。その間や黒川沿いにやや低い土地がある。		
幹線道路・交通施設	東側の市街地内を山国川沿い南北に県道吉富港線が通る。これに並行して、同バイパスの整備が計画されている。		
主要施設・土地利用	北部に製薬会社が広い面積を占める。海岸に吉富漁港・総合グラウンド、下水道終末処理場などが整備されている。 公的な施設としては、よしとみ皇后石研修センター、周防苑などがある。		
市街化状況	山国川沿いに漁村集落を母体とした小犬丸・喜連島・高浜の市街地が南北に連なり、密集度が高い既成市街地となっている。 県道吉富港線の西側黒川との間は農地の中に住宅が近年建ってきている。黒川より西側は、農地が広がっている。		
用途地域等	南側の県道中津吉富線沿道が近隣商業地域、その他の既成市街地は第一種住居地域に指定。県道吉富港線の西側は用途地域外。 製薬会社の敷地は工業専用地域に指定している。		
地域の特性	密集した市街地と広がりのある農地および広大な工場からなる。海および川に面するが、河口部であるため河川敷は無い。 既成市街地は社寺や文化財などが多く、歴史文化が引き継がれている。		
主な問題課題	既成市街地の生活道路が狭く、建物が密集している。 県道吉富港線と黒川との間への住宅立地により農地と混在。 農地は浸水や塩害の影響を受けている。工場の騒音なども問題。		
構 想			
将来像	まちづくりのテーマ	工業・農・漁業の盛んな“活力ある産業と調和した魅力的な地域”づくり	
	都市整備の方向	地域の歴史や文化を活かした居住環境の充実や、工業・農業・漁業などの産業環境の保全・充実を図るとともに、県道吉富港線バイパスの整備を契機に、新たな発展を担う地域としての整備を展開していく。	
方針	土地利用	工業地の充実、優良な農地の保全、無秩序な市街化の防止により、調和のとれた土地利用を展開する。 既成市街地は安全性の高い住宅地として環境の向上を図る。 既存工業地周辺への環境配慮型企業の新誘致などを推進する。	
	都市施設	道路	県道吉富港線バイパスの整備を促進するとともに、産業立地の進展に備え、周辺道路の整備を進める。 既成市街地の生活道路の拡幅を促進し、安全に利用しやすい道路網を形成する。
		下水道	ほぼ全域が認可区域であり、整備の推進と接続の促進を図る。
		公園緑地	社寺の緑の保全、既設公園の有効利用を図るとともに、市街地内未利用地のオープンスペースとしての活用を促進する。 吉富漁港内の緑地の保全を図る。
市街地・集落整備	狭い道路の整備、建築物の防火性の向上により、安全性の高い市街地形成を推進する。		

図5-3 北部地域構想図



(3) 西部地域

現 況			
地区	大字別府・楡生・鈴熊・今吉・土屋・直江		
地形条件	なだらかに北向きに傾斜する平坦地（標高7～20m）。その中に鈴熊山が独立して位置する。佐井川沿いに一部低い土地がある。		
幹線道路・交通施設	地域の北部を県道中津豊前線とJR日豊本線が東西に通る。 南北軸は、東側に県道山内吉富線が整備されたが、従来の主要道路であった町道直江中村線もよく利用されている。 地域の中・南部を東西方向に結ぶ道路の整備状況、接続がよくない。		
主要施設・土地利用	吉富中学校、幼保一体化施設こどもの森がある。 集落とまとまりのある農地が交互に展開した土地利用となっている。		
市街化状況	既存集落の周辺に近年住宅の散発的な立地が進んでいる。一方で、集落内に空き家が発生するなどの状況がある。 県道山内吉富線沿いおよび周辺でミニ開発が進み、新たな市街地を形成しつつある。		
用途地域等	直江・今吉の県道沿いが一部第一種住居地域。土屋および鈴熊・今吉の北側が第一種低層住居専用地域に指定されている。地域の南側は用途地域外。		
地域の特性	広がりのある農地と歴史のある社寺、佐井川沿いや集落内の公園・緑地により緑豊かな地域となっている。		
主な問題課題	既存集落内の生活道路に狭いところが多い。 地域の骨格となる主要道路の幅員が狭く、安全性に問題がある。 県道山内吉富線沿いなど用途地域外での市街化の進行により良好な田園景観が損なわれてきている。		
構 想			
将来像	まちづくりのテーマ	豊かな自然と調和した“快適で安全な住宅地域”づくり	
	都市整備の方向	既存集落内の生活道路の整備を促進するとともに、佐井川の水害対策、鈴熊山や佐井川沿い、集落の緑および農地の保全などにより、うるおいのある快適で安全な住宅地域としていく。 また、県道山内吉富線を活かした地域整備を展開していく。	
方針	土地利用	緑地・優良な農地の保全、無秩序な市街化の防止により、調和のとれた土地利用を展開する。 県道山内吉富線周辺地域に身近な利便性の高い施設の立地を誘導するなど、計画的な市街化を図る。 集落・市街地は低層住宅地として良好な環境を保持する。	
	都市施設	道路	県道山内吉富線の利用を促進する道路ネットワークの構築により町道直江中村線の交通量を削減し、安全性の向上を図る。 地域内を東西に結ぶ基幹軸となる道路の整備を推進する。
		下水道	北側の一部地区を除き認可区域外となっているため、土地利用計画との整合をとり、効率的な整備を推進する。
		公園緑地	鈴熊山公園など地域の憩いの場を充実させるとともに、佐井川河川公園を緑とレクリエーションの拠点として整備推進する。
		河川	佐井川および周辺について、災害に強い整備を推進する。
市街地・集落整備	既存集落内の生活道路の拡幅整備を促進する。		

図5-4 西部地域構想図



(4) 南部地域

現 況			
地区	大字幸子		
地形条件	なだらかに北向きに傾斜する平坦地（標高6～16m）。西部地域との間および南部東側山国川沿いに段丘崖があり、緑地が残る。		
幹線道路・交通施設	地域を南北に県道吉富本耶馬溪線が通る。直線的な道路であるため、車の走行速度が高い。拡幅整備により歩道の設置が進められている。町の南部である地域の東西方向を結ぶ主要道路がない。		
主要施設・土地利用	地域の北部にスーパーマーケットがあり、周辺には店舗、医院などが立地している。南端に特別養護老人ホームがある。		
市街化状況	既存集落の周辺、黒川より南側に集団的な農地が広がっている。県道吉富本耶馬溪線沿い以外での新たな住宅立地は他の地域に比べ少ない。		
用途地域等	県道吉富本耶馬溪線の東側幸子古地区が第一種低層住居専用地域。県道西側および黒川より南側は、用途地域外。		
地域の特性	広がりのある農地とまとまりのある集落とが明確にわかれており、豊かな田園地帯となっている。 山国川の河川敷が公園（緑地）として整備され多目的に利用されている。		
主な問題課題	県道吉富本耶馬溪線以外に幹線道路が無く、東西方向の道路が弱い。県道東側の用途地域内に農地が多く残っており市街化が進んでいない。既存集落内の生活道路が狭い。		
構 想			
将来像	まちづくりのテーマ	農地と住宅地が共存する“環境重視の地域”づくり	
	都市整備の方向	既存集落の環境の維持向上、集団的な農地の保全・整備を推進し、農地と住宅地との良好な関係を保っていく。 県道沿いへの生活利便施設の立地を誘導し、環境を重視した快適な地域づくりを行っていく。	
方針	土地利用	優良な農地の保全、無秩序な市街化の防止により、調和のとれた土地利用を展開する。 県道吉富本耶馬溪線沿い（特に南部）への身近な利便性の高い施設の立地を誘導し、地域の生活利便性の向上を図る。 集落・市街地は低層住宅地として良好な環境を保持する。	
	都市施設	道路	県道吉富本耶馬溪線の整備を促進し、交通安全の向上を図る。 地域内を東西に結ぶ基幹軸となる道路の整備を推進する。 既存集落内の生活道路の整備・改善を推進する。
		下水道	全域が認可区域外ではあるが、ほぼ全体計画には含まれているため、早期の整備を推進する。
		公園緑地	山国川総合グラウンドの有効利用と適正管理を進める。 山国川沿いなど段丘崖の緑地を保全するとともに、黒川沿いの自然環境を守り、緑のネットワークを形成していく。 用途地域内、集落内の土地を活用し、身近な憩いの場を確保する。
市街地・集落整備	既存集落内の生活道路の拡幅整備を促進する。		

図5-5 南部地域構想図

